

第14回 日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム

「“One Health”アプローチで取り組む薬剤耐性対策 ～薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの 成果と次期展望～」

令和3年11月30日（火）、日本医師会と日本獣医師会の共同主催による第14回日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「“One Health”アプローチで取り組む薬剤耐性対策～薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの成果と次期展望～」が、Web配信により、のべ326名の視聴者を得て盛大に開催された。なお、本シンポジウムでは、講演者全員の講演を事前収録した上で、質疑応答はオンラインを活用してリアルタイムで実施した。

冒頭、日本医師会の中川俊男会長及び本会の藏内勇夫会長から開会挨拶が行われた。

【中川俊男 日本医師会会長挨拶】



第14回日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「“One Health”アプローチで取り組む薬剤耐性対策～薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの成果と次期展望～」の開催にあたりまして日本医師会を代表してご挨拶申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より感染症予防や人獣共通感染症対策等、多岐にわたり多大なるご尽力を頂いており、衷心より敬意と感謝を表する次第であります。

さて、感染症につきましては、現在新型コロナウイルス感染症第6波の襲来や、今冬のインフルエンザとの同時流行に備えた対策が最重要課題となっています。人類の脅威となり得る感染症を新たに発生させないためにも、AMR対策は引き続き極めて重要となりますが、薬剤耐性菌の増加の一方で新規の抗菌薬開発が減少傾向にあることは、国際社会における大きな課題であると認識しております。

本日のシンポジウムでは、第一部で奈良県立医科大学医学部微生物感染症学講座の矢野教授並びに岐阜大学大学院連合獣医学研究科の浅井教授より、第一期薬剤耐性対策アクションプランの成果と次期アクションプランへの期待について、また第二部で医療及び環境、獣医療分野における薬剤耐性対策の取組みなどについて、先生方よりお話を伺うことになっております。こうしたシンポジウム等を通じて、医師、獣医師に対し、AMR対策の必要性に関する理解を深めるとともに、患者さんやご家族に丁寧に説明することによって、国民全体にも

その理解を醸成していくこともわれわれに課せられた使命だと考えております。日本医師会といたしましても、関係者とのさらなる連携を深め、実効ある取組みを進めてまいり所存です。

むすびに、本シンポジウムの開催にあたりご尽力いただきました日本獣医師会の皆様へ感謝申し上げますとともに、本日ご参加の皆様方にとりましても、本シンポジウムが実りあるものとなりますことを祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

【藏内勇夫 日本獣医師会会長挨拶】



日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「“One Health”アプローチで取り組む薬剤耐性対策～薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの成果と次期展望～」が、多数の皆様のご参加を得て開催されることに對し、日本獣医師会を代表して心から感謝申し上げます。

このたびの新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、本シンポジウムもWeb開催といたしました。この新型コロナウイルス感染症は動物由来の人と動物の共通感染症とされており、その感染源や感染経路の究明が進められているところです。

日本獣医師会では、このような国境を超えて広範な地域でまん延する人と動物の共通感染症や本日のテーマである薬剤耐性（AMR）等の課題に対して、人と動物の健康、さらに環境の保全を一体的に考える“One Health”の理念に基づき、各種の取組みを実践してきたところです。

平成 25 年には、日本医師会との間で、学術協力の推進に関する協定を締結し、さらに地域の医師会と地方獣医師会においても同様の協定が結ばれ、日本全国で“One Health”の実践体制のネットワークが構築されました。本シンポジウムも、この協定に基づく取組みの一環として、医師と獣医師が相互に情報共有することを目的に、農林水産省及び厚生労働省の多大なるご支援をいただきながら、今回で14回目を迎えることができました。

本日は、政府が平成 28 年に策定した「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」に基づく取組みの成果と次期展望をテーマとして、第一部の特別講演の演者には、医療分野から奈良県立医科大学医学部教授の矢野寿一先生を、獣医療分野からは岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授の浅井鉄夫先生をお招きしました。第二部では、医療分野と獣医療分野における薬剤耐性への取組みの具体例を紹介していただいた後、環境省、厚生労働省、農林水産省の担当官から AMR 対策の現状と対策について解説していただきます。

ご多忙の中、ご講演を快くお引き受けいただいた演者の皆様方には、心からお礼申し上げます。最後に、本日もご視聴の皆様方に改めて厚くお礼申し上げるとともに、中川俊男会長をはじめ日本医師会関係者の皆様のご理解とご協力、そして開催についてご指導いただいた関係省庁の皆様方に感謝申し上げます、私の挨拶といたします。

【第一部：特別講演「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの成果と今後の課題」】

第一部の特別講演では、矢野寿一 奈良県立医科大学医学部教授から「医師側の提言：医療分野における薬剤耐性菌の現状と課題」について講演が行われた後、浅井鉄夫 岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授から「獣医師側の提言：動物分野における薬剤耐性菌の対策と課題」について講演が行われた。

【第二部：医療、獣医療及び環境分野における薬剤耐性対策等の紹介】

第二部では、「医療、獣医療及び環境分野における薬剤耐性対策の紹介」として、医療分野、獣医療分野及び環境分野の第一線で活躍する識者から「医療、獣医療及び環境における薬剤耐性対策の取組」の講演が行われるとともに、「医療、獣医療及び環境分野における薬剤耐性対策の現状と対策」として、環境省、厚生労働省及び農林水産省から講演が行われた。

それぞれの内容は以下のとおり。

【医療、獣医療及び環境における薬剤耐性対策の取組み】

- ・「愛玩動物診療現場における抗菌剤の慎重使用の取組」
伊従慶太 (株) VDT 最高技術責任者)

- ・「こども病院と地域の抗菌薬適正使用の取組み」

荘司貴代 (静岡県立こども病院総合診療科 / 小児感染症科感染対策室長)

- ・「医療排水中における抗菌薬及び薬剤耐性菌の実態と不活化法の開発」

東 剛志 (大阪医科薬科大学大学院薬学研究科助教)

- ・「茨城県の養豚場における AMR 関連調査成績」

藤井勇紀 (茨城県北家畜保健衛生所)

- ・「養豚場における抗菌剤の慎重使用推進に資する研究」

小林創太 (農研機構動物衛生研究部門人獣共通感染症研究領域腸管病原菌グループグループ長補佐)

【医療、獣医療及び環境分野における薬剤耐性対策の現状と対策】

- ・「薬剤耐性 (AMR) に対する環境省の取組」

小沼信之 (環境省水・大気環境局総務課課長補佐)

- ・国内の医療分野における AMR 対策の現状と対策

長江翔平 (厚生労働省健康局結核感染症課 / エイズ対策推進室室長補佐)

- ・国内の動物分野における AMR 対策の現状と対策

川西路子 (農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課課長補佐)

シンポジウムの最後に、熊谷法夫 農林水産省消費安全局参事官から閉会挨拶が行われた。

【農林水産省消費・安全局 熊谷法夫参事官 閉会挨拶】

本日は、「第 14 回 日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム」に医療や獣医療など幅広い分野から多数の参加をいただきました。医療、獣医療の現場での具体的な取組みの他、今年度は新たに環境分野における薬剤耐性 (AMR) 対策の取組みについてご紹介いただきました。

第一部では、奈良県立医科大学の矢野先生より医師側の立場から、抗菌剤の発見の経緯、薬剤耐性菌の機序、医療分野におけるアクションプランの取組みの現状まで幅広くご講演頂くとともに、人、動物、環境分野が一体となって薬剤耐性菌対策に取り組む必要性についてご提言並びに次期展望をいただきました。

次に岐阜大学の浅井先生より獣医師側の立場から、これまでの動物分野における薬剤耐性の対策と課題についてご講演頂き、より効果的で実効性のある普及啓発の必要性や、大学、民間などが連携した取組みの必要性についてご提言をいただきました。

第二部では、愛玩動物の診療現場での抗菌剤の慎重使用の取組み、こども病院での抗菌剤の適正使用の取組み、医療排水や養豚生産の現場での取組み、豚での抗菌剤の慎重使用に関する研究など幅広い分野での事例紹介やこれまでの成果について、データを用いてご講演をいただきました。

また、行政側からは環境省、厚労省及び農水省から薬剤耐性対策の現状と対策についてご報告をいただきました。

矢野先生、浅井先生ともに、ご提言されておりましたように、薬剤耐性対策は、“One Health”アプローチに基づき、医療、家畜診療、愛玩動物診療、水産養殖、農業生産、食品流通など広範な分野で相互に情報共有を行いつつ、それぞれの分野で、エビデンスに基づいて有効な対策を実践することが重要となっています。

本日のシンポジウムには、医師、獣医師、薬剤師、愛玩動物看護師、自治体職員、製薬会社などさまざまな分野の最前線で活躍する皆様や多くの学生の皆様に、多くのご参加をいただきました。

それぞれの職場やお立場でアクションプランの着実な実践に向けたご尽力をお願いするとともに、本日の参加を機会に、職場の同僚や大学の友人、ご家族などとの間で、“One Health”アプローチや薬剤耐性対策を話題に取り上げていただく機会を設けていただければ幸いです。

これまで農林水産省ではアクションプランに基づき、薬剤耐性に関する動向調査の強化や、食品安全委員会の

リスク評価に基づき、飼料添加物としての指定を取り消す等のリスク管理措置を講じるなど、抗菌剤が適正かつ慎重に使用されるよう対策を推進して参りました。

また、本年5月には新たに「みどりの食料システム戦略」を策定し、ワクチン等の開発など抗菌剤に頼らない畜産・水産養殖の生産体制を推進しているところです。

本日のシンポジウムのご講演を参考にさせていただき、内閣官房、厚生労働省、環境省など関係省庁と連携し、医療、獣医療、農業生産、環境分野の皆様とともにAMR対策アクションプランを着実に進めていけるよう関連施策の実施や研究事業を実施していくとともに、幅広く消費者や飼い主など国民の皆様にごデータやエビデンスを用いて正確な情報提供と普及啓発に取り組んで参りますので、皆様方、それぞれのお立場からAMR対策のアクションを起こし、また継続していただくことをお願い申し上げます。

最後に、第14回「日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム」の企画と準備にご尽力いただいた日本獣医師会と関係するすべての皆様にご感謝申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。